特集01
JR宇都宮駅東口地区整備

JR宇都宮駅東口地区に多目的アリーナを創ろう！

建設部会・まちづくり委員会・宇都宮ブランド戦略委員会共同提案の「宇都宮の未来」

JR宇都宮駅東口地区の整備事業が、現在宇都宮市によって進められつつあります。その有効活用について、昨年12月に建設部会・まちづくり委員会・宇都宮ブランド戦略委員会の3会が合同で要望書を取りまとめ、北村会頭に提出しました。そこで今回は、とりまとめた3会の代表者にお集まりいただき、要望書の内容について座談会を開催しました。

出席者
- 建設部会 部会長 酒井 淳氏（㈱酒井建築設計事務所 代表取締役会長）
- まちづくり委員会 委員長 金 中烈氏（㈱南大門ホールディングス 代表取締役会長）
- 宇都宮ブランド戦略委員会 委員長 笠原 正人氏（アサヒタクシー㈱ 代表取締役）
- 司会：宇都宮商工会議所 会頭 北村 光弘

共同作業で宇都宮の活性化をめざす

北村 皆さまが取りまとめてくださった「宇都宮駅東口地区整備事業計画策定に関する要望書」を、1月18日に、宇都宮市長および市議会議長へ、商工会議所の要望として提出させていただきました。

本日は、取りまとめの経緯や、これからの宇都宮についてお話しいただきたいと思います。

酒井 平成22年に、宇都宮市で宇都宮駅東口地区整備推進懇談会を立ち上げて議論が行なわれた時、私ども建設部会からも要望書を市に提出しました。その後、懇談会の結論が発表になりましたが、私どもの想いとは少し違っておりましたので、部会としてもう一度検討し直そうと話し合っていました。

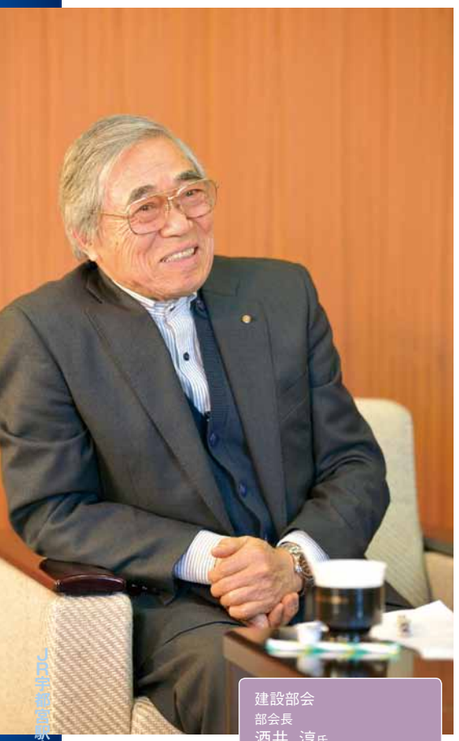
そうしましたら、まちづくり委員会や宇都宮ブランド戦略委員会の2委員会でも同じテーマでご検討されているとお聞きしましたので「これは、商工会議所として統一の見解を出した方がいいのではないか」ということで、今回の3会合同の要望書をまとめる運びとなりました。

金 3年前にまちづくり委員会の委員長をお引き受けした際に「せっかくお引き受けするのであれば、しっかりやって形に残したい」と考えました。まちづくりというのは長期間にわたるものですから、3年という短い任期の間に結果を出すのは、なかなか難しい。それぞれの時期のメンバーが全力で汗をかき、少しずつでも足跡を残しつつ、バトンを次のメンバーに渡していくことが、重要だと考えました。

幸い、現在のメンバーには親しい方も少なくありませんので、できるだけ本音で議論していける運営を心がけています。

他の部会・委員会の活動などを事務担当者に教えていただいたところ、建設部会ではすでに要望書を出されているということを知りました。また宇都宮ブランド戦略委員会でも、同じテーマで検討をされているところでしたので「それなら3会合同で」と話が決まりました。

笠原 宇都宮ブランド戦略委員会の委員長を引き受けたとき「宇都宮のブランドを確立して市外、県外に発信するにはどうしたらいいか」いろいろ悩みました。宇都宮市から「宇都宮ブランド戦略指針」を教えていただいたり、委員会内で議論したりしていく間に、徐々に方向性が出てきまして、最終的に「宇都宮に活動拠点を持つプロスポーツチームが3つある。これらを宇都宮のブランドとして全国発信を」という意見統一ができました。



建設部会
部会長
酒井 淳氏
㈱酒井建築設計事務所
代表取締役会長

佐藤市長に要望書を提出し意見交換をする、北村会頭・酒井部会長・金委員長・笠原委員長（1月18日）

具体的には「JR宇都宮駅東口にスポーツアリーナを建設することが良いのではないか」ということになり、プロジェクトチームを立ち上げて研究を進めていましたら、他の会でも同じような土俵でそれぞれ協議しているとうかがいました。それであれば、ぜひ3会合同でやりましょう、商工会議所として要望書を提出できるようにしましょうということになりました。

北村 ありがとうございます。皆さまの意見が集約された要望書を市に提出し、ぜひ実現に向けて進んでいきたいと考えています。

JR宇都宮駅東口は、今後の宇都宮の発展にとって重要な場所

酒井 JR宇都宮駅東口の敷地は、まちづくりにとって非常に重要な場所です。そこに何を作れば、宇都宮のまちづくりにとって効果的かというのは、建設部会でも大きなテーマとして捉えています。

まちづくり委員会
委員長
金 中烈氏
㈱南大門ホールディングス
代表取締役会長

たとえばランドマークになるような高層ビルを造り、宇都宮に近づいただけで「あれが宇都宮だ」と分かるようなものという意見もありました。

ただ、こういう時代ですから採算性を優先して考えることも必要です。その意味ではランドマークよりも、市民が恩恵にあずかれる方が効果的ですし、経済的にも成り立つのではないかという方向で話が進んで行きました。そうした考え方で絞って行きますと、やはり「スポーツを中心としたアリーナ」。市民も使うことができる、大勢のお客様も呼ぶことができる多目的アリーナがふさわしいのではないか、ということに固まってきました。

金 酒井部会長がおっしゃった「多目的アリーナ」が、まさしく今回の目玉商品ですね。

現在、宇都宮市は、佐藤市長のおっしゃっている「ネットワーク型コンパクトシティ」を推進しています。その中心に何を据える

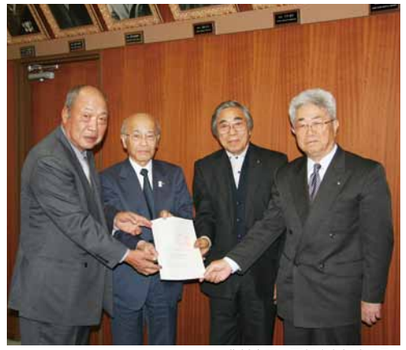
空から見た宇都宮市市街地
（平成24年3月撮影、宇都宮市提供）

宇都宮の将来について語る酒井部会長と金委員長

ない、止まっていただきたいということも、施設の目的に含まれるでしょう。ですから、非常に魅力的でグレードの高い施設にしなければならないと考えています。五十年後百年後に「あって良かった」と皆さんに言われるものを、考えたいと思っています。

金　外国では、こうしたものを造る際には、百年先まで考慮するのが当然で、そのおかげで街が大変個性的です。日本の場合は、造っては壊すのが当然のような考え方なのですが、これは資源を短期間で消却するので、もったいないと思います。今、酒井部会長が「五十年後百年後」とおっしゃいましたが、建設部会は専門家ですので、ぜひ深い議論をお願いしたいと思います。

笠原　プロが利用するだけでなく、子どもたちもここでスポーツの楽しさ、すばらしさを体感できるようにしたいですね。


北村会頭に要望書を提出する、酒井部会長・金委員長・笠原委員長（12月5日）

合同で作業することが大きな力になる

酒井　今回、皆さんと一緒になり、いちばん感じたのは、集まれば大きな力になるんだということです。こういう方式を今後はどんどん活かしていけるとすばらしいでしょうね。

金　こういうことをいろんなことでやれば、活性化されますよね。お互いの気心も知れますし。

酒井　それぞれの分野の専門家が知恵を絞ればいい案も出るし、具体的にもなってきます。いい習慣になればと思います。

笠原　横断的なつながりを持つ必要がありますね。

酒井　今回はJR宇都宮駅東口がテーマですが、本当は各地域それぞれに核となる施設を考えて活性化を行うことが必要なんです。そうやって各エリアが盛り上がれば、宇都宮市全体が活性化すると思います。

笠原　宇都宮の中心部に街の賑わいを取り戻すことが、急務だと思います。街の賑わいとは大型店を持ってくることだけではなく、むしろ市民が憩える空間や店舗を持ってくることだと思います。そうしたまちづくりのために、商工会議所の役割は、これから大きくなっていくのではないでしょうか。

金　商店街の皆さんと話していますと「まだまだ『お上』意識が残っているな」と感じる時があります。行政が何かをやってくれるのを待っている姿勢ですね。行政側は最近では柔軟で、こちらが出向いて意見を言えば、どんどん聞いてくれるのですが、それに気づいていない方が、少なくないようです。

笠原　その橋渡しを、商工会議所にお願いできるといいですね。

金　いろんなアイデアがあると思うのです。商店街活性化には、若い人の出店が不可欠ですが、商売が軌道に乗るまでは家賃がネックになりがちです。だったらスライド方式にして、最初は低く、商売が軌道に乗るに従って正規の金額まで上げて行けば、ハードルは低くなりますよね。

酒井　県内にはたくさんの専門家がいますから、そういう方々にもっともっと活躍していただける素地を商工会議所が作り、もちろん私たちもできる限り応援していく。そういうことが、大切だと思います。

北村　さまざまなご意見、ありがとうございました。最後に酒井部会長に、まとめをお願いします。

酒井　JR宇都宮駅東口地区整備の計画策定・事業実施は行政が中心となって進めるものですが、それに先だって行政に商工会議所としての意見や考えを理解していただくことが大切です。また、施設整備や運営に関しては、皆さんのお話しにも出ましたけれども、公設民営、民設共営などのいろいろな組み合わせを検討する必要がありそうです。

今後は、そうしたさまざまな検討を通じて、事業資金や収益性の問題なども含め、他都市の事例研究などを行ないながら、さらに詳しい提案も行いたいと考えています。ぜひご協力をお願いします。

宇都宮商工会議所
会頭
北村　光弘

昨年10月に視察した宮城県仙台市の多目的アリーナ「ゼビオアリーナ仙台」

ました。ただ、実現の可能性が分からないので、専門家である建設部会に声をかけて、ご検討いただいたんです。そうしましたら「多少無理があるけれども、サッカー場をのぞけば何とかなるんじゃないか」ということでした。

参考になった「ゼビオアリーナ仙台」視察

笠原　宇都宮ブランド戦略委員会としては「スポーツアリーナを創ろう」というのが、スタートだったんです。ですので、最初にプロスポーツチームの方々に来ていただき、いろいろレクチャーしていただきました。

どのチームにも共通する悩みが「宇都宮に施設が無い」ということでした。したがって、それをつくるにはどうすればいいかということになりました。

委員会の中では実態調査のためにサッカーやバスケットの試合を実際に見学したりしました。また部会・委員会合同で、仙台に昨年10月オープンした多目的スポーツ施設「ゼビオアリーナ仙台」へ視察に行ったりもしました。

金　その視察から「これはいける」と確信しました。もちろん予算や、できた後の運営など、いろいろ問題はあると思います。ですがこれは次のステップに進んだ時、県民、市民の意向を反映すれば、きっと可能だろうと思うのです。

金子市議会議長に要望書を提出し意見交換する、北村会頭・酒井部会長・金委員長・笠原委員長（1月18日）

酒井　私が視察で感じたのは、非常にコンパクトでローコストでつくっている、いいものだということでした。ただ、今度の場合は、まさに宇都宮のど真ん中、栃木県のど真ん中ですから、もう一つグレードをあげないといけない。どう上げるかはこれからの議論ですけれども、もう少し、駅前の施設としてふさわしいものにしたいと思います。

宇都宮ブランド戦略委員会
委員長
笠原　正人氏
アサヒタクシー㈱
代表取締役

笠原　現在、それぞれのプロスポーツチームでは社会貢献や地域貢献に力を入れています。そんな立派なプロスポーツチームが、宇都宮から無くなってしまっては大変です。今後も活躍していただくためにも、よい試合のできる場所を提供しなくてはいけないだろうと思います。

酒井　私たち建設部会はハードについては得意ですが、それをどう運営するかについては2つの委員会にご協力いただき、さらに考えていきたいと思います。

五十年後、百年後に「つくってよかった」と言われる施設を

笠原　私は、プロスポーツチームがまだまだ市民権を得ていないことが、問題だと思っています。もっともっと市民の間に浸透させて行かなくてはいけないと思います。

商工会議所には約七千の会員がいるわけですから、商工会議所をあげて応援すれば、大きな効果を挙げられると思います。

また、商工会議所の議員さんは、言ってみれば専門家集団です。ですからスポーツの運営、アリーナの運営についても、積極的に商工会議所が関わって、うまく運営して行くといいのではないでしょうか。

酒井　先ほど「都市間競争」という話が出ましたが、宇都宮を素通りして欲しく

特集01
JR宇都宮駅東口地区整備

宇都宮駅東口地区整備事業計画策定に関する要望書

JR宇都宮駅東口地区に多目的アリーナを!

「宇都宮駅東口地区整備事業計画策定に関する要望」～地域のソフト資源を活かす多目的アリーナ建設に向けて～

平成25年1月18日に、宇都宮市長および宇都宮市議会議長に提出した「宇都宮駅東口地区整備事業計画策定に関する要望書」の内容を抜粋して掲載します。座談会にも出ているとおり、建設部会・まちづくり委員会・宇都宮ブランド戦略委員会の3会が共同でとりまとめ、宇都宮商工会議所の要望書として提出したものです。

はじめに

地域のまちづくりと経済の活性化は、全国の都市が抱える共通の課題となっています。そして、様々な都市で地域の特徴となる資源を活かす方策を模索しながら、地域経済の活性化と都市間競争に打ち勝つための取組を続けています。

本市におきましても、既存の資源はもとより新たな資源の掘り起こしにより、交流人口の増加と消費の拡大に努めて参りましたが、現状が決して十分とは言えません。

当所では、本市を代表する最高のソフト資源であり市民の誇りでもある〝プロスポーツチーム〟を強力に支援し、市民はもとより関東・東北エリアからの広域交流を活発にすることで、中心市街地及び地域経済の活性化に繋げることができると考えています。

そこで、県都最大の交流拠点となりえる宇都宮駅東口地区整備における施設機能として、プロスポーツ競技開催を主とした〝多目的アリーナ〟並びに関連施設の建設を実現していただきたく、要望書として取りまとめました。

今後の整備計画策定にあたりましては、本要望内容を反映していただきますよう、よろしくお願いいたします。

要望内容

要望経緯の中で記述した「要望書」と「提言書」の内容においては、同じ方向性が示された点も多々認められますが、特に「提言書」の中で示された中核機能施設としてのコンベンション施設については、現時点においては「会議中心型」のコンベンション施設が有力とされています。

この点に関しては、同様の既存施設に無い規模と機能性を備えることが重要となります。例えば、昨年10月、仙台市にオープンした「多目的アリーナ」が6千人規模の収容能力を有することからも分かるとおり、特に、全国的な規模のコンベンションを誘致するためには、同等かそれ以上の収容規模が必要と思われます。

また、コンベンション機能以上に重要と考えられるのが、エンターテインメント対応機能だと考えます。「住めば愉快だ宇都宮」をブランドメッセージとする本市においては、市民が楽しめるスポーツ、コンサート、演劇など、様々なエンターテインメントに対応できる機能性を、十分に備えた施設が見当たらないのが現状であると思われます。

特にプロスポーツに関しては、地域に支えられた3つのクラブチームがあるにもかかわらず、ホームとなる施設に関しては決して十分とは言えません。

行政においても「宇都宮ブランド」の一つとして、地域のプロスポーツチームを支援していますが、何故プロスポーツかと言えば、地域の活性化を促進する上で非常に高い効果が期待できるからだと言えます。

スポーツは「観る」、「参加する」、「プロを目指す」など、個人のレベルに合わせ万人が楽しめるものとなっています。

オリンピックを見ても分かるとおり、故郷の出場選手を応援することで市民の一体感が生まれ、選手が良い成績を収めれば、それに触発された競技人口の増加や技術のレベルアップ、また、そうしたことに伴うビジネスチャンスの増加や消費の拡大、さらには健康増進、青少年の健全育成など、「経済」、「福祉」、「教育」といった幅広い分野において様々な効果を発揮します。

金子市議会議長に要望書を提出する、北村会頭・酒井部会長・金委員長・笠原委員長（1月18日）

佐藤市長に要望書を提出する、北村会頭・酒井部会長・金委員長・笠原委員長（1月18日）

宇都宮市の新しい顔としての活用が期待されます

現在のJR宇都宮駅東口地区。駐車場や店舗があります

JR宇都宮駅周辺の航空写真（平成23年2月撮影、宇都宮市提供）

多目的アリーナ及び関連施設の設置効果

「多目的アリーナ」及び「関連施設」の設置効果として、主に考えられるものを以下のとおり記載します。

1 優良エンターテインメントの提供

ソフトを活かすためのハードが整うことにより、各地から優良ソフト・コンテンツを集めることができ、その結果、優良なエンターテインメントを提供することができます。（例：プロスポーツ・コンサート・演劇・自転車・JAZZ・カクテル・餃子・学会・コンベンションなど）

2 民間運営

多目的に使えることで、稼働率と収益性を高めることができ、民間参入が期待できます。

3 既存施設との役割分担

ビッグイベントを集約することで、既存の公共施設を本来の市民イベントや市民サービスに特化して活用できます。

4 「宇都宮プライド」推進

駅前のランドマークとして、宇都宮プライドの推進に大いに貢献することができます。

5 シティーセールス

シティーセールスの大きなセールスポイントとして、ライバルと思われる「さいたま市」や「仙台市」に対抗する競争力を、向上させることができます。

6 「自転車のまち」推進

ジャパンカップサイクルロードレースと同時開催されるジャパンカップクリテリウムは、これまで大通りを通行止めにして行われてきましたが、安全性、交通、観客席などの課題も指摘されています。そこで、多目的アリーナと一体的に整備される敷地内管理道路やオープンスペースについては、観客席を備え競技使用できる設計とすることにより、クリテリウム開催以外にも様々な競技の開催が可能となります。例えば、自転車競技にはトラックレース、バイシクルモトクロス、サイクルサッカーなどもあり、多目的アリーナと併用することで新たなサイクルフェスティバルの企画や誘致も可能となり、市民レベルのイベントから国際大会まで、オールラウンドに楽しめる「自転車のまち」をさらに推進できます。

7 「ジャズ・カクテル・餃子のまち」推進

ジャズ・カクテル・餃子を中心に、音楽ライブを楽しめるステージを備えた屋台村的施設を設置することにより、「ジャズ・カクテル・餃子のまち宇都宮」を広くアピールすることができます。

8 「安心・安全なまち」推進

東日本大震災では帰宅困難者の受け入れ施設が問題となりましたが、駅直結の利便性により災害対策施設として緊急時活用できます。

（後略）

地域のプロスポーツがこうした一連の流れの中で最も効果的なソフトであるとすれば、両輪としてのハード整備は必要不可欠となり、選手やファンにとっての快適な環境と演出を提供できる専用施設が、最も重要な要素であると考えられます。

このように、現状の不足を補いかつ今後のまちづくり推進力となる施設を備えることにより、「会議中心型」の施設で心配される、既存施設との区別化や、極めて限定的な経済効果といった課題を解決することも可能となります。

したがって、具体的な整備計画に当りましては、現状の地域特性や需要分析を踏まえたうえで、プロスポーツを中心に既に存在する地域資源を最大限に活かせる機能性を備えることは言うまでもなく、将来に向けた地域資源の掘り起こしや開発、さらには需要を喚起する方策や起爆剤となる施設整備といった視点で、検討されることが重要であると考えます。

また、本来は栃木SCのホームグラウンドについても、当地区に一体的整備を推進していただきたいところですが、スポーツ・レクリエーション拠点の位置付けにある、西川田地区の競馬場跡地を活用した施設計画との連携や役割分担等について検討される中で、協議されることが必要と考えます。

このような基本的考えに基づき、〝コンベンション機能とエンターテインメント対応機能を備えた複合施設〟を整備することにより、本市の優位性と言われる、首都圏や東北地方からの恵まれた交通アクセスとの相乗効果が発揮され、市民をはじめ広域からの幅広い集客や、新たなサービス産業の参入に繋がることも期待できます。

また、JR駅に直結する立地条件から、今後の推進が期待される最適な公共交通ネットワークの中で、バス・タクシー・LRTなど、将来的に考えられる様々な交通手段を接続する集散ポイントとして、重要な役割を担う施設となることが見込まれます。さらには、JR宇都宮駅西口地区や二荒山神社周辺の再開発事業推進との整合を図ることにより、中心市街地活性化の一体的推進が可能となります。

その結果として、宇都宮市が目指すネットワーク型コンパクトシティーの推進と、低迷する地域経済の活性化に対する波及効果も格段にアップするものと思われますことから、これらを実現するための中核機能施設として、「多目的アリーナ」及び「関連施設」の設置をお願いいたします。